



みなみっ子

34 号

令和8年7月1日(水)

南城市立大里南小学校

文責 校長 與儀 毅

学校教育目標

自立

協働

創造

私たち学校でもスマホやゲームでのトラブルがあります！！多くの保護者の悩みでもあると思います。

1 利用時間の増加で懸念されること

子どもたちのスマホ・タブレットの利用時間が増えることで、以下のような「心・体・安全」への悪影響が懸念されています。

健康面への影響:視力の低下、睡眠不足、運動不足による体力の低下。

精神面・学習面への影響:ネット依存、集中力の低下、リアルなコミュニケーション能力の発達の遅れ。

安全面(犯罪・トラブル)の危機:SNSを通じた誘拐や性被害、ネットいじめ、高額課金、個人情報の流出。

2 海外における「SNS 年齢制限」の動向

「事件に巻き込まれてからでは遅い」という危機感は世界共通であり、近年、諸外国では法律による厳しい年齢制限や規制が急速に進んでいます。国・地域主な規制内容・動向アメリカ(各州)多くの州で16歳未満(または18歳未満)のSNS利用に保護者の同意を義務付ける法案が成立・議論されています。オーストラリア16歳未満の子どものSNS利用を全面的に禁止する法律が可決され、プラットフォーム企業に厳格な年齢確認を義務付けています。フランス15歳未満のSNS利用には保護者の同意を必須とし、学校内でのスマホ持ち込み・使用を原則禁止(デジタルデトックス)とする試みも進んでいます。

3 「利用の約束(ルール)」と保護者の責任

海外で法規制が進む一方で、日本においてはまだ家庭内での管理(自主規制)に委ねられている部分が多いのが現状です。そのため、保護者の責任は極めて大きいと言えます。「事件に巻き込まれてからでは遅い」を防ぐために、今すぐ見直すべきポイントは以下の3点です。

①「我が家のルール」の徹底とアップデート

ルールは一度作って終わりではなく、子どもの成長やトラブルの事例に合わせて定期的に見直す必要があります。

場所と時間の制限:「夜0時以降はリビングで充電する」「食事中は使わない」

使い方の制限:「新しいアプリを入れる時は必ず親に相談する」「知らない人からのメッセージには返信しない」

②フィルタリング・ペアレンタルコントロール(保護者がネット利用環境を整えてあげること)の活用

子どもの「約束を守る意志」だけに頼るのは危険です。物理的な制限をかけることは、子どもを犯罪から守る盾になります。利用時間の上限設定(アプリごとに制限をかける)有害サイトや年齢不相応なアプリのブロック課金制限の設定

③日常的なコミュニケーション

最も強力な防犯は、「困った時にすぐ親に言える関係性」です。ルールを破ったことを厳しく叱りすぎると、子どもはトラブル(詐欺や脅迫など)に巻き込まれた際に親に隠そうとしてしまい、被害が深刻化します。

まとめ

スマホやタブレットは素晴らしい道具ですが、一歩間違えば子どもを危険にさらす凶器にもなり得ます。「周りもみんな使っているから」と安心せず、我が子の安全を守るために、ルール作りとフィルタリングの設定、そして日々の声かけを徹底していく必要があります。

スマホの危険から子供を守る：今すぐ始める家庭の対策

忍び寄るリスクと世界の動き



子供を守る「3つの盾」

